

ご存知ですか？ 武蔵野市のゴミの行方

武蔵野市のゴミがどこで処理されているかご存知ですか？

クリーンセンター？ 答えはイエス。

でも、燃やした後の灰はどこに？ リサイクル回収されたペットボトルや空き缶はどこ？
知っているようで知らないゴミの行方を追いかけてみます。

ゴミの戸別収集

武蔵野市では平成16年から市内全域でゴミの戸別収集を行っています。一人ひとりが出す自分のゴミに責任を持つことを目指し、スタートしました。

武蔵野 クリーンセンター

焼却炉

ゴミは3基の焼却炉（通常は2炉運転）で燃やして灰にします。焼却炉内のゴミは850度～1100度の高温で完全に焼却されます。

可燃ゴミピット

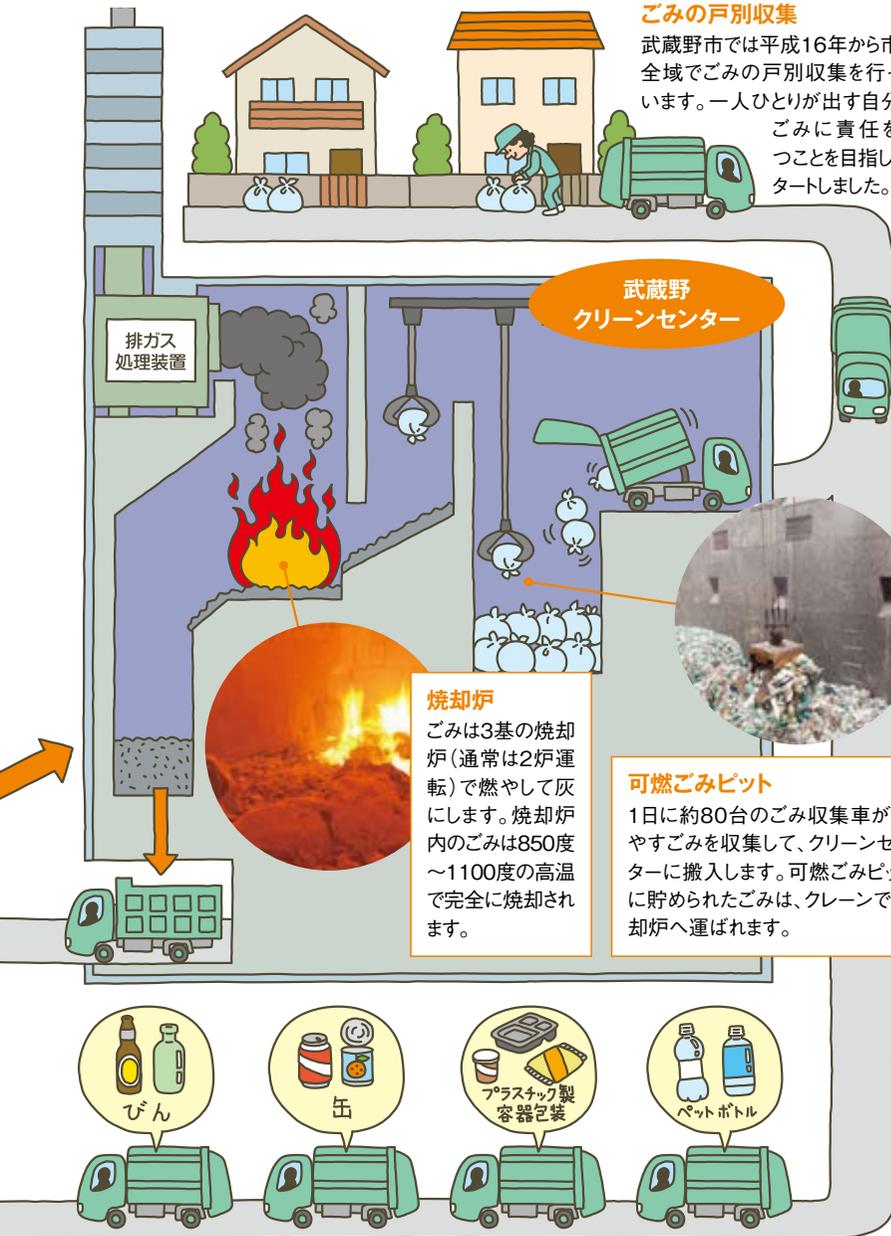
1日に約80台のゴミ収集車が燃やすゴミを収集して、クリーンセンターに搬入します。可燃ゴミピットに貯められたゴミは、クレーンで焼却炉へ運ばれます。

市内で発生するゴミは 市外でリサイクル処理

私たちが日々出しているゴミは、収集されると市のクリーンセンターに運ばれ、燃やせるゴミについては焼却されます。燃やせないゴミ・粗大ゴミは破碎・選別され、鉄やアルミなど資源になるものはリサイクル業者に引き取られます。焼却灰は、西多摩郡日の出町にある「二ツ塚処分場」に運び込まれます。ここにある「東京たまエコセメント化施設」で、焼却灰はエコセメントに生まれ変わります。また、ペットボトルやアルミ缶などの収集された資源物は、西多摩郡瑞穂町の民間処理施設に運搬され、選別後、リサイクル処理に回されます。有害ゴミで水銀を含むおそれのある乾電池や蛍光灯は、ドラム缶に詰められて北海道へと運ばれ、適正な処理が行われリサイクルされています。このように、武蔵野市のゴミは、すべて市外で最終的に処理されています。

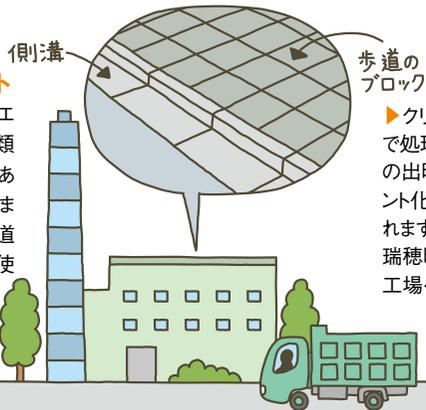
財政や処理の面からも ゴミの減量は不可欠

では、リサイクルされているからといって、ゴミをどんどん出してもよいのでしょうか？
答えはもちろんノーです。ゴミ処理の経費は、平成23年度で約34億6千万円がかかっており、市民1人当たりの経費にすると約2万5千円に達します。ゴミを削減すれば財政支出の節約にもつながります。



エコセメントプラント

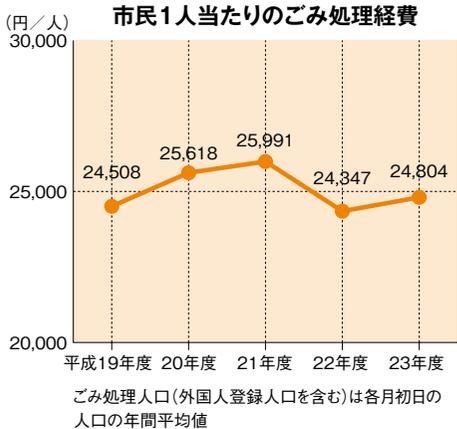
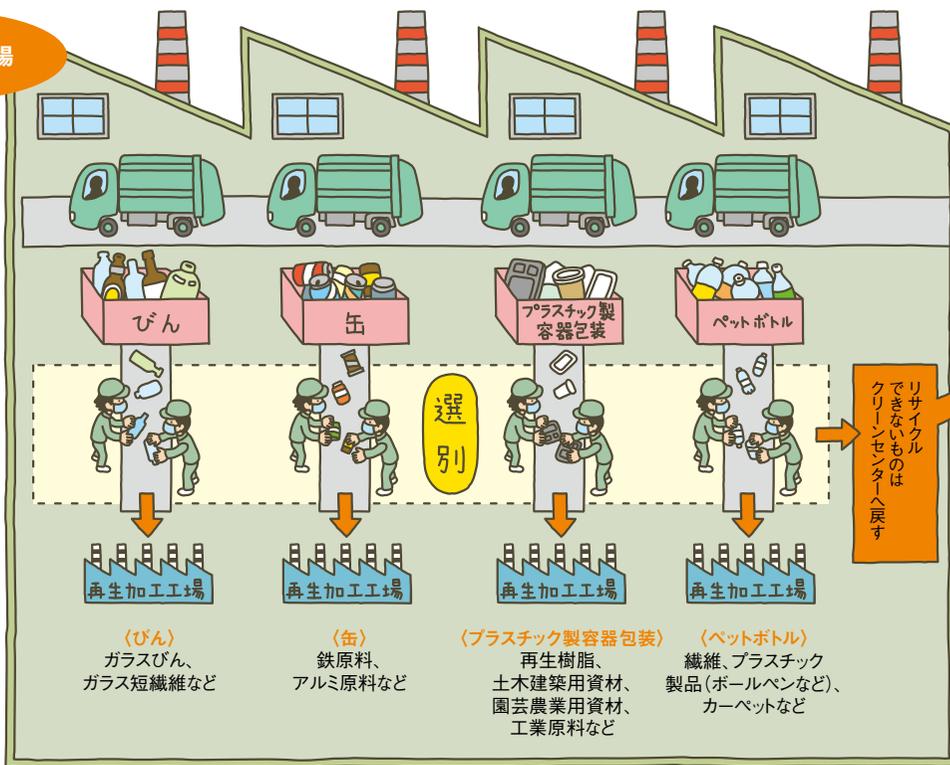
ごみを原料に作られるエコセメントは、重金属類が溶け出さず、安全であることが確認されています。道路の側溝や歩道のブロックなど幅広く使用されています。



▶クリーンセンターで処理された灰は、日の出町にあるエコセメント化施設へと搬送されます。また、資源物は瑞穂町にあるリサイクル工場へと運ばれます。



リサイクル工場



います。量化に務めていくことを前提に計画されています。

3万2千トンありますが、平成29年までに3万トンまで減量する計画です。新クリーンセンターは、武蔵野市民が今後もごみの減量化に務めていくことを前提に計画されています。

また、現在のクリーンセンターが耐用年数を迎えることから、平成29年には新しいクリーンセンターの稼働が計画されています。新施設の焼却炉の処理能力は、1日当たり120トン(現在のクリーンセンターは1日あたり195トン)と小さくなります。平成23年度の年間焼却ごみ処理量は約3万2千トンありますが、平成29年までに3万トンまで減量する計画です。新クリーンセンターは、武蔵野市民が今後もごみの減量化に務めていくことを前提に計画されています。

市では、平成16年10月に家庭ごみの有料化と戸別収集を開始しました。これによつて、ごみの排出量は平成16年度の約5万5千トンから減少を続け、平成23年度には約4万8千トンになりました。市民の協力や事業者の努力により、家庭ごみは大幅に減っているのです。

武蔵野市のごみ処理の課題

ごみ処理の現場から

安全でエコなクリーンセンター

クリーンセンターは、市内唯一のごみの中間処理施設です。この施設で1日に焼却するごみの量は、約1200トン。焼却の際に発生する熱エネルギーは、クリーンセンターや隣接する市役所、総合体育館の冷暖房、さらには市営プールや第四中学校のプールなどの温水にも利用されています。



また、焼却時に発生する排ガスについても安全に処理しています。高温の排ガスは冷却され、特殊なフィルターにかけられ小さなばいじんが取り除かれた後、薬品で洗浄。有害物質が除去されます。処理された排ガスは厳しい自主規制をクリアして排出されます。

ごみ減量は地球レベルの課題

今後も、ごみの減量を推進しなければなりません。地球では温暖化が進んでいます。その原因である二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を少しでも減らすためには、不要なエネルギーの使用をやめなければなりません。ごみ処理には、運搬、焼却、リサイクルで、多くのエネルギーを使います。私たちが日々出しているごみを減らすこともエネルギーの使用を減らすことにつながります。

市では、さらなるごみの減量と呼びかけるためエコキャンペーンを実施しています。市民団体、事業者、行政などが協力して、マイバッグの使用を呼びかけながら、レジ袋の使用を削減を進めています。

ごみの減量について、例えば「燃やすごみ」の量について考えてみましょう。燃やすごみの中には紙類が含まれていることが多く、細かく分別すれば回収する古紙に分別できます。ごみの減量には、ごみを生まない地道な取り組みと適切なリサイクルが必要です。

新クリーンセンター平成29年に稼働 災害、環境、教育などに配慮した最新施設

今年で稼働から28年目となるクリーンセンター。焼却炉やボイラーなど主要設備が耐用年数を迎えつつあります。市では、平成29年



新クリーンセンターの模型

の稼働開始を目標に新クリーンセンターの建設準備を進めています。新施設の計画には、検討委員会に市民が参加し、施設の基本計画を策定するため50回以上もの委員会が開かれました。

新クリーンセンターでは、地球環境の保全を目指し、排ガスについて、全国でも最も厳しい自主規制値を設定します。また、災害に強い施設を目指し、非常時のガスコージェネレーション設備を導入。ごみを焼却することで、同時に発電を行い、市役所や総合体育館などに電力を供給します。ごみとガスが燃料なので災害時にも発電を続けられます。また、現クリーンセンターの事務所棟などを再利用した「エコプラザ」も整備され、環境啓発施設として環境教育を行うほか、コミュニケーションの場となる施設を目指します。

※ガスコージェネレーションシステム……ガスで発電すると同時に排熱を回収し、給湯や蒸気などに利用するシステム



クリーンセンターに搬入された燃やすごみは、計量後、可燃ごみピットへ投入される。



施設全体を24時間体制で管理。焼却炉などの運転状況、クレーンの操作、排ガスなどを監視する。

ごみ減量・分別を推進していくために

eCOIイベントに参加しよう

私たちが日頃出しているごみはどこで、どのように処理されているのでしょうか。市では、そのような疑問に答えながら、ごみ問題を考える市民ツアーを開催しています。8月下旬に行う「夏休みごみ探検隊」、秋に行う「ごみの行方を知るツアー」の年2回です。夏休みごみ探検隊では、瑞穂町のリサイクルプラントを見学。正しく分別されなかったペットボトルを暑さと強い匂いの中で分別する作業を見学することで、分別の大切さを実感します。また、自然公園を訪れ、自然観察や昆虫採集を体験。親子でごみ処理の現状と自然保護の大切さを実感できるツアーです。今年の9月下旬に開催された「ごみの行方を知るツアー」では、瑞穂町の民間処理施設と日の出町の東京たまエコセメント化施設を見学しました。

家庭用品のリユースを推進する 情報交換ボード「むさしのエコポ」

「まだ使えるけど邪魔なので捨てようかな」「欲しいけど新品じゃなくてもいい」。そう思ったなら、「むさしのエコポ」を利用してみませんか。

むさしのエコポは、不要な品物を譲り

たい人と譲ってもらいたい人の情報交換

掲示板。普通ハガキに「譲ります」「譲ってください」のどちらかを記し、品物情報や価格、氏名、連絡先を書き込み、クリーンセンターに送ります。情報は、市内11カ所に設置された情報掲示板「むさしのエコポ」に掲載されます（一部の施設はファイルでの閲覧）。また、市のホームページでも同じ情報が掲載されます。譲る品物の金額は、原則無料で、有料とする場合の上限は3千円です。

今年3月からスタートし、7月末時点で約60件の情報が寄せられ、そのうち30件の譲渡が成立しました。「むさしのエコポ」を利用して、生活用品のリユース（再利用）を推進していきましょう。



「むさしのエコポ」のボードのデザインは武蔵野大学の学生が協力。

ごみとして出す前にちょっと気を付けよう



**ボンベや
スプレー缶は
有害ゴミ
大事故につながる
引火性危険物**

カセットボンベやスプレー缶などは、中身を使いきってから「有害ごみ」として出してください。使いきれない場合は、ボンベに「残あり」と書きましょう。引火性のガスを含むボンベ類を不燃ごみとして出すと危険です。過去には、不燃ごみに混じったガスの残ったボンベがごみ収集車の荷台で爆発する事故も起きています。



**家電リサイクル法の
対象製品は
販売店を通じて
正しい処分を**

家庭から出るごみの中には、家電リサイクル法の対象の製品があります。テレビ（ブラウン管式・液晶式・プラズマ式）、エアコン、洗濯機・衣類乾燥機、冷蔵庫・冷凍庫を廃棄するときは、購入した販売店もしくは新品を購入する販売店に引き取りを依頼するか家電リサイクル受付センター（☎042-485-1681）まで連絡してください。

武蔵野市 都市鉱山 開発事務所

回収された廃家電製品から レアメタルなどの資源を取り出す

廃棄される家電製品の内部には、銅や鉄などリサイクルすれば資源になる物質が含まれています。市では昨年4月、クリーンセンター内に「都市鉱山開発事務所」を開設しました。ここでは、市が回収した廃家電製品（ビデオデッキ、電子レンジ、プリンター、掃除機など）を分解し、電子基板、モーター、トランス、電源コードなどを選別回収します。回収された電子基板などはリサイクル業者に、売却します。プラスチックなど残った部品は、クリーンセンターに燃やさないごみとして送られます。



ここで処理する家電廃品は1日40台程度で、作業は週に2日。年間に90万円ほどの売却を予定しています。事務所では、障害のある方が仕事として作業にあたっており、雇用創出の場を作ることもつながっています。